

共通

授 業 内 容 表

◎ 時限等に★印のあるものは、今年度は開設されない。

授 業 番 号 授 業 科 目	単 位	時 限 等	担 当 教 員	内 容	成 績 評 価 基 準
EM1001 教育課程編成の課題と実践	2	後期 木 1-2	久保 信行 客員教授	①教育課程とカリキュラム, ②教育課程と組織文化, ③教育課程から教育課程経営へ, ④教育課程の研究手法, ⑤荒牧小フィールドワーク, ⑥ビデオカンファンスやドキュメント資料による教育課程経営診断法等について学修する。	授業中のプレゼンテーション(50%)により主として授業内容への理解度を, 期末課題(50%)により理論の実践的応用についての理解度を評価する。
EM1002 カリキュラム開発の課題と実践Ⅰ	2	前期 月 5-6	山崎 雄介 教授 野村 晃男 教授	①カリキュラム開発の諸形態, ②「特色ある学校づくり」とカリキュラム・マネジメント開発, ③カリキュラム評価, ④カリキュラム開発への多様な当事者(保護者, 子どもなど)の参加, ⑤カリキュラム開発者としての教師, などについて学修する。	授業中のプレゼンテーションにより, 理論的知識への理解度と, 実践的応用に関わる着眼点の豊かさで評価する。
EM1003 学習支援の課題と実践Ⅰ	2	前期 火 1-2	佐藤 浩一 教授 田村 充 教授	児童生徒の知識の定着, 知識の活用, 協同学習, メタ認知等を促す教授学習の方法を心理学の理論知と学校現場の実践知の両面から検討する。	(1)学習活動を支える認知機能について正しく理解でき, (2)それに基づいて教育実践を考察する力がついているかを, 平常点(宿題・授業での発表等)60%と最終レポート40%によって, 総合的に評価する。
EM1004 教育評価の課題と実践Ⅰ	2	前期 金 1-2	山口 陽弘 教授 田村 充 教授	実践研究に欠かせない教育効果の測定法について, 主として理論的な講義を行う。その際, 実際の実践活動を行ってきた事例を, 実務家教員からも紹介してもらう。その上で, 当該事例であれば, どのような知識測定のためのテスト理論, 質問紙に関する各種理論, 知識が適応でき, 必要となるかを講義する。すなわち, 課題が実務家教員から呈示された上で, それに対して, 理論家の立場からどのような解決が可能かを試案として呈示していくものである。そして, その試案を, 受講者全員で検討して, より高めあっていく形式をとる。	ストレートマスターであれば教員採用試験に合格でき, 現職教員学生であれば教職の現場に戻ってリーダーとなりうるレベルを到達度目標とする。平常点50%, 各自の発表50%により評価する。
EM1005 授業分析実践	2	前期 木 9-10	田村 充 教授 鈴木 豪 准教授	授業を分析・構築するための心理学および実践的視点を学んだ上で, それらの知見をいかに実際の授業で活用しうるかを検討する。	授業での発表, 討論への参加などにより評価する。
EM1006 児童・生徒理解の課題と実践Ⅰ	2	前期 火 3-4	大島みずき 講師 添島 康夫 非常勤講師	児童・生徒の理解の基礎知識として, 生涯発達の観点から人間の発達過程, 及び年齢に伴う一般的な発達特性や発達障害について学修する。また, 現代の子どもの置かれている状況と発達の問題点・及びその対応を事例検討を通して, 考察する。	発達, 発達障害についての基礎知識を修得(60%), 期末課題(40%)により評価する。
EM1007 児童・生徒指導の課題と実践Ⅰ	2	前期 火 5-6	懸川 武史 教授 吉田 浩之 教授	児童生徒理解に基づく日常的な生徒指導を機能的に進め, 児童生徒一人一人の適応を助けて自己実現を可能にするために必要な理論と技法を学修した上で, 不登校, いじめ, 非行等の生徒指導上の諸問題に関する事例を通して, 実践的な指導力の向上を図る。	成績評価は, 平常点30点, 理論に関する小テスト30点, 理論に基づく生徒指導事例分析レポート40点により評価する。
EM1008 特別活動指導の課題と実践Ⅰ	2	前期 木 3-4	懸川 武史 教授 音山 若穂 教授	特別活動の目標と意義を正しく理解した上で, 学級活動の基盤となる教師-児童生徒間及び児童生徒相互の関係の望ましい在り方, 児童会・生徒会活動を効果的に進めるための学校体制の整備, 学校行事の適切な目標設定と評価について学修する	成績評価は, 平常点30点, レポート課題(ケース研究と活動計画案)70点により評価する。
EM1009 学校経営の課題と実践Ⅰ	2	前期 木 5-6	高橋 望 准教授 鈴木 達也 非常勤講師	国内外の学校経営についての理論的・実践的蓄積を幅広く学ぶとともに, 現代日本における学校教育をめぐる諸課題について, 具体的な学校経営策を探究・学修する。	授業中のプレゼンテーション・討論への参加(50%)によって主として理論的課題の理解度を, 期末課題(現代の教育課題に関わる学校経営改善策の提案, 50%)によって構想力・理論的知識の咀嚼度を評価する。

共通

授 業 内 容 表

◎ 時限等に★印のあるものは、今年度は開設されない。

授 業 番 号 授 業 科 目	単 位	時 限 等	担 当 教 員	内 容	成 績 評 価 基 準
EM1010 ----- 教育環境学	2	★	新藤 慶 准教授	学校や教師に対する様々な批判が渦巻く現状における効果的な教育実践には、学校教育制度が社会的に果たしてきた機能や教師への社会的な役割期待、あるいは教育制度改革や教育指導がもたらす(意図せざる)影響等について多角的に理解しておくことが役立つ。この授業では、教育社会学の理論と様々な調査資料に基づいて学校を取り巻く社会環境の性質を理論的・実証的に把握するとともに、様々な教育問題への対処法について、受講者相互及び教員とのディスカッションを通じて考察する。	成績評価は、各回の授業への貢献(課題・発表等)と期末レポートを対象とし、授業で学んだ理論や知識の理解に基づきながら、具体的な教育行為の効果や様々な諸問題への対処法について考察できているかとの観点に基づいて行う。
EM1011 ----- 教員の倫理	2	後期 月 3-4	三澤紘一郎 准教授	Professional ethics(職業倫理)という近年注目を集める分野を、「倫理とはどのようなものか」という根源的な地点から理解し、教師という専門家としての倫理を再考する。	授業への積極的な参加(ディスカッションやプレゼンテーション):50% 期末レポート:50%
EM1012 ----- 多文化共生教育の課題と実践	2	前期 水 3-4	新藤 慶 准教授 清水 喜義 非常勤講師	グローバル化の進展に伴い、その必要性が高まっている「多文化共生教育」について、その現状と今後の実践のあり方について考える。特にこの授業では、群馬県にも多くが生活するブラジル人児童生徒を対象とした多文化共生教育に関する諸研究や諸実践を、子ども、教師、保護者と教育行政などさまざまな視点から検討することで、実態の的確な把握と、よりよい実践の構築につなげた。	成績評価は、各回の授業への貢献(課題・発表等)と期末レポートを対象とし、授業で学んだ理論や実態の理解に基づきながら、具体的な多文化共生教育の実践について考察できているか、との観点に基づいて行う。
EM1013 ----- 多エスニシティ化社会の教育の課題と実践	2	★		2019年度は開講しない。	
-----					
-----					
-----					
-----					
-----					
-----					

# 児童生徒支援

# 授業内容表

◎ 時限等に★印のあるものは、今年度は開設されない。

授業番号 授業科目	単 位	時限等	担当教員	内 容	成績評価基準
EM1014 学習支援の課題と実践Ⅱ	2	後期 火 1-2	佐藤 浩一 教授 田村 充 教授	「学習支援の課題と実践Ⅰ」を基礎として、児童生徒の学習や動機づけ等に関する理解に基づいて、理論を実践の中で具体化する方途を探る。	(1)様々な理論に基づく教授学習方法の有効性を検討でき、(2)より効果的な学習支援方法を実践的に構築する力がついているかを、平常点(模擬授業・授業での協議への参加等)60%と最終課題40%によって、総合的に評価する。
EM1015 教育評価の課題と実践Ⅱ	2	後期 金 1-2	山口 陽弘 教授 田村 充 教授	教育評価の課題と実践Ⅰで獲得した知識を基にして、実際に知識や思考力測定のためのテストを作成してみる。受講者各自が自分の興味関心に応じて質問紙、テストをできるようにすることを授業の目標にする。	課題への全体的な取り組みの姿勢、特に、各自が授業内で提案する評価の枠組が評価対象となる。さらに各自に模擬授業の実施を求める。その各々を50%ずつ評価する。
EM1016 児童・生徒理解の課題と実践Ⅱ	2	後期 火 3-4	大島みずき 講師 添島 康夫 非常勤講師	児童・生徒理解の方法を習得するために、発達特性や発達障害の知識をもとにした事例の検討を行う。	発達特性、発達障害についての理解(30%)及び、事例検討への参加・課題(70%)で総合的に判断する。
EM1017 児童・生徒指導の課題と実践Ⅱ	2	後期 月 7-8	懸川 武史 教授	非行、校内暴力、不登校、いじめ等、生徒指導上の諸問題について、共通する問題状況に関する理論を学修した上で、個別の問題に有効な要因について分析し、その理解と指導法について学修する。	成績評価は、授業への参加による平常点30点、個別テーマに関する調査・研究報告50点、事例報告20点により評価する。
EM1044 児童・生徒指導の課題と実践Ⅱ	2	後期 月 特例	懸川 武史 教授	非行、校内暴力、不登校、いじめ等、生徒指導上の諸問題について、共通する問題状況に関する理論を学修した上で、個別の問題に有効な要因について分析し、その理解と指導法について学修する。	成績評価は、授業への参加による平常点30点、個別テーマに関する調査・研究報告50点、事例報告20点により評価する。
EM1018 教育相談の課題と実践	2	後期 火 5-6	岩瀬 大樹 准教授	学校教育相談の今日的課題を概観しつつ、教員個人およびスクールリーダーの立場から、多角的に子ども・保護者などへの支援について考察を深める。また、事例検討・ロールプレイングなどの方法を積極的に取り入れるとともに、学校と司法・行政・福祉機関などとの有機的な連携に関しても実践的に学んでいく。	平常点(30%)と、適宜実施するリフレクション(70%)をもとに、総合して評価する。
EM1019 教育相談実習	1	後期 火 7-8	懸川 武史 教授 岩瀬 大樹 准教授	実習校や関係教育相談機関において、教師として教育相談に臨み、教育相談の実践を通じて教育現場に即した教育相談の、1.校内連携の在り方、2.家庭との連絡や相談の在り方、3.専門相談機関との連携の在り方、4.年度を越えた縦断的なサポートの在り方など学校現場に特に必要とされる教育相談の実践を、一つ一つの事例に即して学び、現場に合った相談を実践する。	成績は、平常の実習への取り組みと事例記録とスーパーヴィジョンを70点とし、学期末の事例研究を30点とし評価する。
EM1020 特別活動指導の課題と実践Ⅱ	2	後期 水 1-2	懸川 武史 教授 音山 若穂 教授	特別活動、特に学級経営・生徒指導の基盤となる学級活動の進め方について、多様な指導方法の種類とその特徴について理解し、有効な目標設定・教師の支援・教育効果の評価のための技能の向上を目指す。特別活動で要求される教師の心理教育的支援技能の実習を含む。模擬授業及び技能実習を実施するため現職教員と学部新卒学生が一緒に受講する。	成績は討議・実習への参加による平常点30点と、レポート課題(授業案の作成)70点により総合的に評価する。
EM1021 心理・発達アセスメント実習	1	後期 月 1-2	音山 若穂 教授 大島みずき 講師	児童生徒理解のための心理検査、発達検査及び知能検査等の実施法と解釈の仕方を学ぶ。また、心理尺度に基づく実践効果の検証方法も扱う。	成績は、授業中の発表など平常点(50%)とレポート(50%)により総合的に評価する。レポートは、テーマ毎に課せられる。

# 児童生徒支援

# 授業内容表

◎ 時限等に★印のあるものは、今年度は開設されない。

授業番号 授業科目	単位	時限等	担当教員	内 容	成績評価基準
EM1045 心理・発達アセスメント実習	1	後期 火 特例	音山 若穂 教授 大島みずき 講師	児童生徒理解のための心理検査、発達検査及び知能検査等の実施法と解釈の仕方を学ぶ。また、心理尺度に基づく実践効果の検証方法も扱う。	成績は、授業中の発表など平常点（50%）とレポート（50%）により総合的に評価する。レポートは、テーマ毎に課せられる。
EM1022 児童・生徒指導のためのロールプレイの技法と実習	1	前期 集中	山口 陽弘 教授 懸川 武史 教授	児童・生徒指導、保護者への対応、職場での問題点などへの対処法を、受講生に生徒役、教師役、保護者役などを割り振り、ロールプレイを行うことで、実際には指導力向上に役立てる。学部新卒学生であれば教員採用試験に合格できることにももちろん、現職教員学生であれば教職の現場に戻ってリーダーとなりうるレベルである。	授業の毎回出席はもちろん、課題への全体的な取り組みの姿勢、最終的なロールプレイへの事前・事後における、受講者自身の自己報告による改善レポートを求める。そのレポートも評価対象とする。
EM1023 外国籍児童生徒の支援と学校運営	2	後期 水 3-4	新藤 慶 准教授 清水 喜義 非常勤講師	戦後の日本には、在日韓国・朝鮮人、中国帰国者、アジア系外国人、南米系外国人など、多様な国籍やエスニシティを持つ人々が暮らしてきた。そのことに伴い、教育の面でも、これらの外国籍児童生徒に対するさまざまな働きかけを行ってきた。そこでこの授業では、戦後の日本における外国籍児童生徒への支援や、それを支える学校運営についての諸研究や諸実践の検討を通じて、成果と課題を把握し、今後の外国籍児童生徒教育のあり方について考えたい。	成績評価は、各回の授業への貢献（課題・発表等）と期末レポートを対象とし、授業で学んだ理論や実態の理解に基づきながら、具体的な外国籍児童生徒の支援や、それを支える学校運営について考察できているか、との観点に基づいて行う。
EM1024 発達障害児特別支援教育の課題と実践	2	後期 集中	霜田 浩信 教授 安田 淑美 非常勤講師	特別支援教育の対象児の中でも、小・中学校の通常学級に在籍する児童生徒に焦点を当て、個々の子どもの実態の把握、それに基づく個別の指導計画の立案及び支援の方法について、実践事例を交えて具体的に学ぶ。この授業を通して、特別支援教育コーディネーターの役割と実際についての専門的知識の一端を身に付けることを目的とする。	評価は、授業への参加による平常点（30%）、学修した知識を用いて作成する個別の学習教育計画案の内容とプレゼンテーション（70%）を総合して行う。
EM1025 教育実践のリフレクション	1	★		2019年度は開講しない。	
EM1026 教育現場実践実習	1	通年 集中	専任教員他	実習校の教育課程、年間指導計画に基づく学校運営への参加により40時間以上の実習を行う。学習指導、生徒指導、学校運営において、チームティーチング等の役割により教育活動へ参加する。授業計画に基づき担当教員の指導を受ける。	参加状況（20%）とリフレクションの内容（80%）を評価する。
EM1027 児童生徒支援課題研究	1	前期	専任教員他	実習を通じて、児童生徒の学習や生活支援に関する課題を受講生らが明確にし、その課題解決のための計画立案、実践を行い、研究実践報告書としてまとめ発表する。本授業は、実習との往還により授業を進める。受講者毎に、受講者の課題テーマを専門とする研究者教員と実務家教員が各1名ずつペアになり指導にあたる。	成績は、課題に関する理論的な考察、課題解決に向けたプランの提案、実践とそのリフレクションの深さ等を、授業中の発表、課題研究中間報告書、課題研究報告書、課題研究中間報告会、課題研究報告会などによって見取り、総合的に評価する。
EM1028 児童生徒支援課題研究	1	後期	専任教員他	実習を通じて、児童生徒の学習や生活支援に関する課題を受講生らが明確にし、その課題解決のための計画立案、実践を行い、研究実践報告書としてまとめ発表する。本授業は、実習との往還により授業を進める。受講者毎に、受講者の課題テーマを専門とする研究者教員と実務家教員が各1名ずつペアになり指導にあたる。	成績は、課題に関する理論的な考察、課題解決に向けたプランの提案、実践とそのリフレクションの深さ等を、授業中の発表、課題研究中間報告書、課題研究報告書、課題研究中間報告会、課題研究報告会などによって見取り、総合的に評価する。

# 学校運営

# 授業内容表

◎ 時限等に★印のあるものは、今年度は開設されない。

授業番号 授業科目	単 位	時限等	担当教員	内 容	成績評価基準
EM1029 ----- カリキュラム開発の課題と実践Ⅱ	2	後期 月 5-6	野村 晃男 教授 山崎 雄介 教授	受講者が自ら、附属学校や協力校、現職教員の在籍校、あるいはその他先進校などにおいてカリキュラム開発事例を収集・分析し、その結果を生かしながら自身で特定領域・科目のカリキュラムの概要を提案する。	授業中のプレゼンテーションにより主として情報収集力、分析力、カリキュラム開発に関わる実践的力量を評価する。
EM1030 ----- 学校経営の課題と実践Ⅱ	2	後期 木 3-4	高橋 望 准教授 鈴木 達也 非常勤講師	学校内外の組織づくり、管理職—主任等ミドルリーダー層、ミドルリーダー層—教職員等の連携の円滑化などについて、具体的な学校経営上の判断が要請される場面（教育課程編成、危機管理体制の構築、クレーム・トラブルへの対応等）を想定したワークショップ等を取り入れ、実践的力量を向上させる。	到達目標は、①校内での職務に応じ、学校経営に的確に参画できる力量を向上させること、②管理職としてのリーダー行動を身につけることである。授業中の諸課題（ワークショップ、ロールプレイ等、50%）及び期末課題（学校経営方針への自身の参画方針の立案、50%）により評価する。
EM1031 ----- 学校経営計画ワークショップ	1	後期 金 3-4	野村 晃男 教授	学校経営計画立案に関わる実践的学習、及び、受講者各自が学校経営計画の運営をワークショップ形式で行う。	到達目標は、学校経営計画立案に関わる校内での検討をリードできる知識と実践力量の獲得である。授業でのプレゼンテーションを通じ、企画力、構想力、指導力を評価する。
EM1032 ----- スクール・リーダーシップの課題と実践	2	後期 集中	山崎 雄介 教授 木村 淳一 客員教授	各種主任、校務分掌の長、管理職など、学校におけるミドルクラス以上のリーダーの役割と実践力量について、先進事例や外国研究を通して学ぶ。	授業中の諸課題50%により実践的力量を、最終課題50%により主として理論的背景への理解度を評価する。
EM1033 ----- 教師の職能発達と学校経営	2	前期 火 特例	野村 晃男 教授 山崎 雄介 教授	校内研修や日常的な授業改善など、学校を舞台とした教師の資質向上策について、先進事例や外国研究から学ぶ。	授業でのプレゼンテーション（40%）により情報収集力と理論的背景の理解度を、期末課題（受講者が選択した資質・能力についての研修計画・向上策の策定、60%）により構想力・企画力を評価する。
EM1034 ----- 外国籍児童生徒の支援と学校運営	2	後期 水 3-4	新藤 慶 准教授 清水 喜義 非常勤講師	戦後の日本には、在日韓国・朝鮮人、中国帰国者、アジア系外国人、南米系外国人など、多様な国籍やエスニシティを持つ人々が暮らしてきた。そのことに伴い、教育の面でも、これらの外国籍児童生徒に対するさまざまな働きかけを行ってきた。そこでこの授業では、戦後の日本における外国籍児童生徒への支援や、それを支える学校運営についての諸研究や諸実践の検討を通じて、成果と課題を把握し、今後の外国籍児童生徒教育のあり方について考えたい。	成績評価は、各回の授業への貢献（課題・発表等）と期末レポートを対象とし、授業で学んだ理論や実態の理解に基づきながら、具体的な外国籍児童生徒の支援や、それを支える学校運営について考察できているか、との観点に基づいて行う。
EM1035 ----- 学校評価の課題と実践	2	後期 金 5-6	野村 晃男 教授 山崎 雄介 教授	学校教育に関わる各当事者のニーズのアセスメントやそれを踏まえた経営改善に資する評価の方法論について、先進事例を通じて研究する。	授業中のプレゼンテーションから理解度、構成力を評価する。
EM1036 ----- 学校危機管理体制構築の課題と実践	2	後期 木 5-6	高橋 望 准教授 未定	学校の危機管理体制の構築について、現実起きた事故のケース・スタディを交えつつ、先進事例の分析と附属校、協力校、現職院生の在籍校、警察、消防等関係諸機関におけるフィールドワークの往還によって学ぶ。	授業でのプレゼンテーション（50%）により理論・事例への理解度を、期末課題（危機管理体制構築に関わる提案、50%）により実践的力量・企画力を評価する。
EM1037 ----- 地方教育行政の課題と実践	2	前期 集中	野村 晃男 教授	地方教育行政をめぐる法制と実践上の諸課題について、近年の教育改革との関わりで理解を深める。また、地方教育行政機関等の見学を行い、実態の把握や今後のあり方について検討する。	授業中のプレゼンテーション・討論への参加（40%）と見学におけるレポート（60%）で授業内容への理解度を評価する。

学校運営

授業内容表

◎ 時限等に★印のあるものは、今年度は開設されない。

授業番号 ----- 授業科目	単位	時限等	担当教員	内 容	成績評価基準
EM1038 ----- 学校経営のリフレクション	1	★		2019年度は開講しない。	
EM1039 ----- 学校運営課題研究	1	前期	専任教員他	実習を通じて、学校運営に関する課題を受講生らが明確にし、その課題解決のための計画立案、実践を行い、研究実践報告書としてまとめ発表する。本授業は、実習との往還により授業を進める。受講者毎に、受講者の課題テーマを専門とする研究者教員と実務家教員が各1名ずつペアになり指導にあたる。	成績は、課題に関する理論的な考察、課題解決に向けたプランの提案、実践とそのリフレクションの深さ等を、授業中の発表、課題研究中間報告書、課題研究報告書、課題研究中間報告会、課題研究報告会などによって見取り、総合的に評価する。
EM1040 ----- 学校運営課題研究	1	後期	専任教員他	実習を通じて、学校運営に関する課題を受講生らが明確にし、その課題解決のための計画立案、実践を行い、研究実践報告書としてまとめ発表する。本授業は、実習との往還により授業を進める。受講者毎に、受講者の課題テーマを専門とする研究者教員と実務家教員が各1名ずつペアになり指導にあたる。	成績は、課題に関する理論的な考察、課題解決に向けたプランの提案、実践とそのリフレクションの深さ等を、授業中の発表、課題研究中間報告書、課題研究報告書、課題研究中間報告会、課題研究報告会などによって見取り、総合的に評価する。
-----					
-----					
-----					
-----					
-----					
-----					
-----					
-----					

実習

授 業 内 容 表

◎ 時限等に★印のあるものは、今年度は開設されない。

授 業 番 号 授 業 科 目	単 位	時 限 等	担 当 教 員	内 容	成 績 評 価 基 準
EM1041 課題発見実習Ⅰ	2	前期 集中	専任教員	附属小・中・特別支援・幼稚園の4校園を各2日ずつ訪問観察し、校種を越えた学校教育全体の構造とつながりの理解及び3～18歳までの健常児と障害児の発達を理解する。指導教員は、実習校に出向き、観察オリエンテーション及び事後検討会に同席し、実習校教員とともに指導にあたる。	成績は、実習録及び実習時や事後検討会での取り組みにより総合的に判断し、実習校指導教員と大学院指導教員が協議の上、大学院指導教員が評価する。
EM1042 課題発見実習Ⅱ	5	後期 集中	専任教員	1～3名からなる実習班を編制し、実習班ごとに連携協力校2校において、各以下の三点を行う。 a. 学校の全体的概要やカリキュラムの特性と構成などの教務事項を把握する。 b. 授業、部活動等の課外活動、生徒指導等学校教育活動の全体の観察・理解、及び、生徒個人観察、学級全体観察を行う。 c. 授業等補助など実践に参加する。実習班毎に1名の指導教員が担当する。	成績は、実習録及び実習時や事後指導時での取り組みにより総合的に判断し、実習校指導教員と大学院指導教員が協議の上、評価する。
EM1043 課題解決実習	6	通年 集中	専任教員他	実習生各自が課題解決のための企画・立案を実習開始時に行い、その実践に向けて計画的に実習する。実習の具体的な内容は、学生の課題テーマにより個別に計画していく必要があるが、a. 教科等の指導、b. 学級経営、c. 児童生徒指導の実践を必ず含める。各受講者の課題研究の指導教員（研究者教員と実務家教員の各1名）が指導にあたる。	成績は、実習録及び実習時や実践検討会での取り組みにより総合的に判断し、実習校指導教員と大学院指導教員が協議の上、評価する。

# 児童生徒支援

# 授業内容表

◎ 時限等に★印のあるものは、今年度は開設されない。

授業番号 授業科目	単位	時限等	担当教員	内 容	成績評価基準
EM1051 児童生徒支援課題研究	1	前期 火 9-10	佐藤 浩一 教授 田村 充 教授	実習を通じて、児童生徒の学習や生活支援に関する課題を講義生らに明確にし、発表させる。本授業は、実習と研究者の立案、実践、評価の過程を、授業を通じて進め、各1名ずつ発表者毎に、受講生に指導する。	成績は、課題に関する理論的な考察、課題解決に向けたプランの提案、実践とそのリフレクシオン報告書、課題研究中間報告書、課題研究会などによって見取り、総合的に評価する。
EM1052 児童生徒支援課題研究	1	後期 火 9-10	佐藤 浩一 教授 田村 充 教授	実習を通じて、児童生徒の学習や生活支援に関する課題を講義生らに明確にし、発表させる。本授業は、実習と研究者の立案、実践、評価の過程を、授業を通じて進め、各1名ずつ発表者毎に、受講生に指導する。	成績は、課題に関する理論的な考察、課題解決に向けたプランの提案、実践とそのリフレクシオン報告書、課題研究中間報告書、課題研究会などによって見取り、総合的に評価する。
EM1053 児童生徒支援課題研究	1	前期 火 9-10	山口 陽弘 教授 平林 茂 客員教授	実習を通じて、児童生徒の学習や生活支援に関する課題を講義生らに明確にし、発表させる。本授業は、実習と研究者の立案、実践、評価の過程を、授業を通じて進め、各1名ずつ発表者毎に、受講生に指導する。	成績は、課題に関する理論的な考察、課題解決に向けたプランの提案、実践とそのリフレクシオン報告書、課題研究中間報告書、課題研究会などによって見取り、総合的に評価する。
EM1054 児童生徒支援課題研究	1	後期 火 9-10	山口 陽弘 教授 平林 茂 客員教授	実習を通じて、児童生徒の学習や生活支援に関する課題を講義生らに明確にし、発表させる。本授業は、実習と研究者の立案、実践、評価の過程を、授業を通じて進め、各1名ずつ発表者毎に、受講生に指導する。	成績は、課題に関する理論的な考察、課題解決に向けたプランの提案、実践とそのリフレクシオン報告書、課題研究中間報告書、課題研究会などによって見取り、総合的に評価する。
EM1055 児童生徒支援課題研究	1	前期 火 9-10	音山 若穂 教授 懸川 武史 教授	実習を通じて、児童生徒の学習や生活支援に関する課題を講義生らに明確にし、発表させる。本授業は、実習と研究者の立案、実践、評価の過程を、授業を通じて進め、各1名ずつ発表者毎に、受講生に指導する。	成績は、課題に関する理論的な考察、課題解決に向けたプランの提案、実践とそのリフレクシオン報告書、課題研究中間報告書、課題研究会などによって見取り、総合的に評価する。
EM1056 児童生徒支援課題研究	1	後期 火 9-10	音山 若穂 教授 懸川 武史 教授	実習を通じて、児童生徒の学習や生活支援に関する課題を講義生らに明確にし、発表させる。本授業は、実習と研究者の立案、実践、評価の過程を、授業を通じて進め、各1名ずつ発表者毎に、受講生に指導する。	成績は、課題に関する理論的な考察、課題解決に向けたプランの提案、実践とそのリフレクシオン報告書、課題研究中間報告書、課題研究会などによって見取り、総合的に評価する。
EM1057 児童生徒支援課題研究	1	前期 火 9-10	大島みずき 講師 懸川 武史 教授	実習を通じて、児童生徒の学習や生活支援に関する課題を講義生らに明確にし、発表させる。本授業は、実習と研究者の立案、実践、評価の過程を、授業を通じて進め、各1名ずつ発表者毎に、受講生に指導する。	成績は、課題に関する理論的な考察、課題解決に向けたプランの提案、実践とそのリフレクシオン報告書、課題研究中間報告書、課題研究会などによって見取り、総合的に評価する。
EM1058 児童生徒支援課題研究	1	後期 火 9-10	大島みずき 講師 懸川 武史 教授	実習を通じて、児童生徒の学習や生活支援に関する課題を講義生らに明確にし、発表させる。本授業は、実習と研究者の立案、実践、評価の過程を、授業を通じて進め、各1名ずつ発表者毎に、受講生に指導する。	成績は、課題に関する理論的な考察、課題解決に向けたプランの提案、実践とそのリフレクシオン報告書、課題研究中間報告書、課題研究会などによって見取り、総合的に評価する。
EM1059 児童生徒支援課題研究	1	前期 火 9-10	三澤紘一郎 准教授 立見 康彦 客員教授	実習を通じて、児童生徒の学習や生活支援に関する課題を講義生らに明確にし、発表させる。本授業は、実習と研究者の立案、実践、評価の過程を、授業を通じて進め、各1名ずつ発表者毎に、受講生に指導する。	成績は、課題に関する理論的な考察、課題解決に向けたプランの提案、実践とそのリフレクシオン報告書、課題研究中間報告書、課題研究会などによって見取り、総合的に評価する。



# 児童生徒支援

# 授業内容表

◎ 時限等に★印のあるものは、今年度は開設されない。

授業番号 ----- 授業科目	単位	時限等	担当教員	内 容	成績評価基準
EM1060 ----- 児童生徒支援課題研究	1	後期 火 9-10	三澤絃一郎 准教授 立見 康彦 客員教授	実習を通じて、児童生徒の学習や生活支援に関する課題を受講生らが明確にし、その課題解決のための計画立案、実践を行い、研究実践報告書としてまとめ発表する。本授業は、実習と往還により授業を進める。受講生毎に、受講者の課題テーマを専門とする研究者教員と実務家教員が各1名ずつペアになり指導にあたる。	成績は、課題に関する理論的な考察、課題解決に向けたプランの提案、実践とそのリフレクションの深さ等を、授業中の発表、課題研究中間報告書、課題研究報告書、課題研究中間報告会、課題研究報告会などによって見取り、総合的に評価する。
EM1061 ----- 児童生徒支援課題研究	1	前期 火 9-10	山崎 雄介 教授 木村 淳一 客員教授	実習を通じて、児童生徒の学習や生活支援に関する課題を受講生らが明確にし、その課題解決のための計画立案、実践を行い、研究実践報告書としてまとめ発表する。本授業は、実習と往還により授業を進める。受講生毎に、受講者の課題テーマを専門とする研究者教員と実務家教員が各1名ずつペアになり指導にあたる。	成績は、課題に関する理論的な考察、課題解決に向けたプランの提案、実践とそのリフレクションの深さ等を、授業中の発表、課題研究中間報告書、課題研究報告書、課題研究中間報告会、課題研究報告会などによって見取り、総合的に評価する。
EM1062 ----- 児童生徒支援課題研究	1	後期 火 9-10	山崎 雄介 教授 木村 淳一 客員教授	実習を通じて、児童生徒の学習や生活支援に関する課題を受講生らが明確にし、その課題解決のための計画立案、実践を行い、研究実践報告書としてまとめ発表する。本授業は、実習と往還により授業を進める。受講生毎に、受講者の課題テーマを専門とする研究者教員と実務家教員が各1名ずつペアになり指導にあたる。	成績は、課題に関する理論的な考察、課題解決に向けたプランの提案、実践とそのリフレクションの深さ等を、授業中の発表、課題研究中間報告書、課題研究報告書、課題研究中間報告会、課題研究報告会などによって見取り、総合的に評価する。
EM1063 ----- 児童生徒支援課題研究	1	前期 火 9-10	鈴木 豪 准教授 立見 康彦 客員教授	実習を通じて、児童生徒の学習や生活支援に関する課題を受講生らが明確にし、その課題解決のための計画立案、実践を行い、研究実践報告書としてまとめ発表する。本授業は、実習と往還により授業を進める。受講生毎に、受講者の課題テーマを専門とする研究者教員と実務家教員が各1名ずつペアになり指導にあたる。	成績は、課題に関する理論的な考察、課題解決に向けたプランの提案、実践とそのリフレクションの深さ等を、授業中の発表、課題研究中間報告書、課題研究報告書、課題研究中間報告会、課題研究報告会などによって見取り、総合的に評価する。
EM1064 ----- 児童生徒支援課題研究	1	後期 火 9-10	鈴木 豪 准教授 立見 康彦 客員教授	実習を通じて、児童生徒の学習や生活支援に関する課題を受講生らが明確にし、その課題解決のための計画立案、実践を行い、研究実践報告書としてまとめ発表する。本授業は、実習と往還により授業を進める。受講生毎に、受講者の課題テーマを専門とする研究者教員と実務家教員が各1名ずつペアになり指導にあたる。	成績は、課題に関する理論的な考察、課題解決に向けたプランの提案、実践とそのリフレクションの深さ等を、授業中の発表、課題研究中間報告書、課題研究報告書、課題研究中間報告会、課題研究報告会などによって見取り、総合的に評価する。
-----					
-----					
-----					
-----					

学校運営

授業内容表

◎ 時限等に★印のあるものは、今年度は開設されない。

授業番号 授業科目	単位	時限等	担当教員	内 容	成績評価基準
EM1071 ----- 学校運営課題研究	1	前期 火 9-10	新藤 慶 准教授 野村 晃男 教授	実習を通じて、学校運営に関する課題を受講生らが明確にし、その課題解決のための計画立案、実践を行い、研究実践報告書としてまとめ発表する。本授業は、実習との往還により授業を進める。受講者毎に、受講者の課題テーマを専門とする研究者教員と実務家教員が各1名ずつペアになり指導にあたる。	成績は、課題に関する理論的な考察、課題解決に向けたプランの提案、実践とそのリフレクションの深さ等を、授業中の発表、課題研究中間報告書、課題研究報告書、課題研究中間報告会、課題研究報告会などによって見取り、総合的に評価する。
EM1072 ----- 学校運営課題研究	1	後期 火 9-10	新藤 慶 准教授 野村 晃男 教授	実習を通じて、学校運営に関する課題を受講生らが明確にし、その課題解決のための計画立案、実践を行い、研究実践報告書としてまとめ発表する。本授業は、実習との往還により授業を進める。受講者毎に、受講者の課題テーマを専門とする研究者教員と実務家教員が各1名ずつペアになり指導にあたる。	成績は、課題に関する理論的な考察、課題解決に向けたプランの提案、実践とそのリフレクションの深さ等を、授業中の発表、課題研究中間報告書、課題研究報告書、課題研究中間報告会、課題研究報告会などによって見取り、総合的に評価する。
EM1073 ----- 学校運営課題研究	1	前期 火 9-10	山崎 雄介 教授 木村 淳一 客員教授	実習を通じて、学校運営に関する課題を受講生らが明確にし、その課題解決のための計画立案、実践を行い、研究実践報告書としてまとめ発表する。本授業は、実習との往還により授業を進める。受講者毎に、受講者の課題テーマを専門とする研究者教員と実務家教員が各1名ずつペアになり指導にあたる。	成績は、課題に関する理論的な考察、課題解決に向けたプランの提案、実践とそのリフレクションの深さ等を、授業中の発表、課題研究中間報告書、課題研究報告書、課題研究中間報告会、課題研究報告会などによって見取り、総合的に評価する。
EM1074 ----- 学校運営課題研究	1	後期 火 9-10	山崎 雄介 教授 木村 淳一 客員教授	実習を通じて、学校運営に関する課題を受講生らが明確にし、その課題解決のための計画立案、実践を行い、研究実践報告書としてまとめ発表する。本授業は、実習との往還により授業を進める。受講者毎に、受講者の課題テーマを専門とする研究者教員と実務家教員が各1名ずつペアになり指導にあたる。	成績は、課題に関する理論的な考察、課題解決に向けたプランの提案、実践とそのリフレクションの深さ等を、授業中の発表、課題研究中間報告書、課題研究報告書、課題研究中間報告会、課題研究報告会などによって見取り、総合的に評価する。
EM1075 ----- 学校運営課題研究	1	前期 火 9-10	高橋 望 准教授 野村 晃男 教授	実習を通じて、学校運営に関する課題を受講生らが明確にし、その課題解決のための計画立案、実践を行い、研究実践報告書としてまとめ発表する。本授業は、実習との往還により授業を進める。受講者毎に、受講者の課題テーマを専門とする研究者教員と実務家教員が各1名ずつペアになり指導にあたる。	成績は、課題に関する理論的な考察、課題解決に向けたプランの提案、実践とそのリフレクションの深さ等を、授業中の発表、課題研究中間報告書、課題研究報告書、課題研究中間報告会、課題研究報告会などによって見取り、総合的に評価する。
EM1076 ----- 学校運営課題研究	1	後期 火 9-10	高橋 望 准教授 野村 晃男 教授	実習を通じて、学校運営に関する課題を受講生らが明確にし、その課題解決のための計画立案、実践を行い、研究実践報告書としてまとめ発表する。本授業は、実習との往還により授業を進める。受講者毎に、受講者の課題テーマを専門とする研究者教員と実務家教員が各1名ずつペアになり指導にあたる。	成績は、課題に関する理論的な考察、課題解決に向けたプランの提案、実践とそのリフレクションの深さ等を、授業中の発表、課題研究中間報告書、課題研究報告書、課題研究中間報告会、課題研究報告会などによって見取り、総合的に評価する。
-----					
-----					
-----					